

自治体SDGsモデル事業

# 未来めぐる サステイナブルタウン いいで

山形県 飯豊町長  
後藤 幸平



## 町の概要

飯豊町(いいでまち)は、山形県の南西部に位置し、総面積のうち、8割以上が緑豊かな山林が占める。

山形県の母なる川である最上川の源流、置賜白川が町内を南北に貫流し、その清流沿いに稲作地帯が広がる自然溢れる町である。

白川流域の肥沃な扇状地には、豊かな稲作地帯が形成され、屋敷林と家屋が点在し、水田と見事に調和した美しい田園散居集落景観が広がる景観が特徴である。

ブランド牛として名高い米沢牛の生産量の約4割を占める主生産地でもある。

人口：7,304人

世帯数：2,198世帯

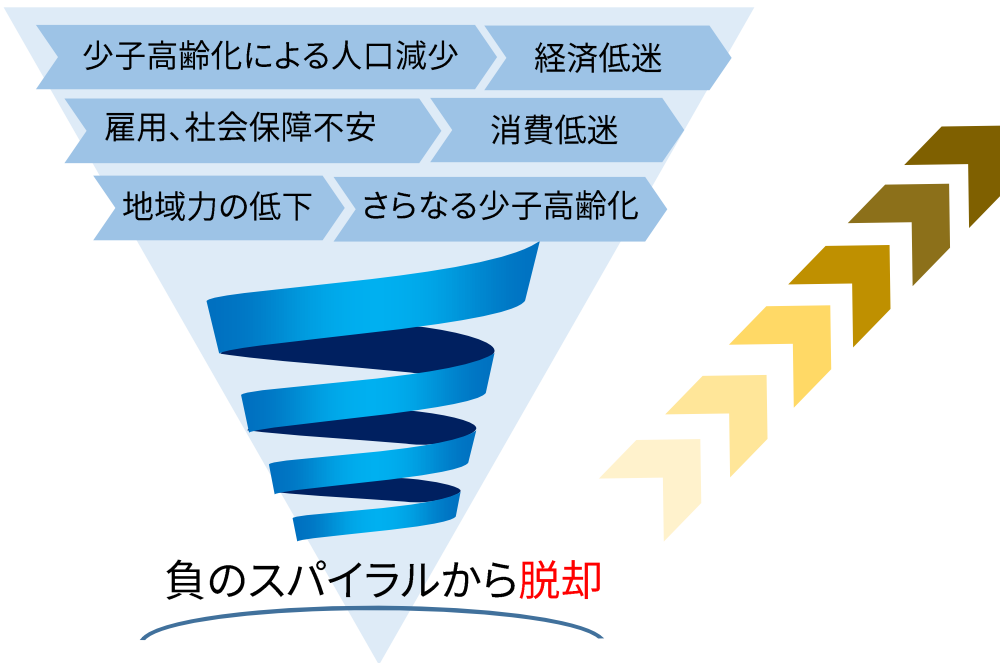
面積：329.41km<sup>2</sup> (人口密度22.2人/km<sup>2</sup>)

高齢化率：34.7%

(※数値は平成27年国勢調査値)



## SDGsモデル事業で 目指す町の未来像

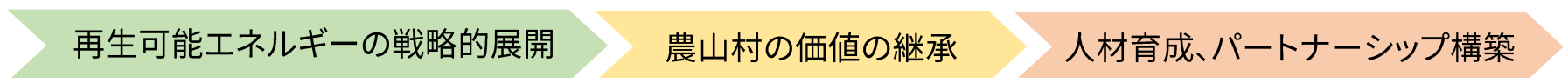


SDGsモデル事業を実施し、  
農山村型自治体再生モデル  
の構築を目指す

### SDGs未来都市で目指す町の姿

- ① 多様な主体による新たな「手づくりのまちいいで」の推進
- ② 地域資源を活用した持続可能な地域づくり
- ③ 農山村地域での新たな価値の創出、提案および実践

### SDGsモデル事業の3本の柱



# モデル事業の概要



## 再生可能エネルギーの戦略的展開

町内に豊富に存在する木質バイオマス資源の活用

肉用牛など家畜排せつ物を利用したバイオガス発電の推進

エリア熱供給の推進／エコタウンの推進

ナレッジの蓄積  
農山村型SDGsモデル



持続可能な農山村の未来づくり支援



未来めぐるサステナブルタウンいいで  
自治体シンクタンク「いいで未来研究所(仮)」

農村計画の学習  
・アーカイブ拠点



## 農山村の価値の継承

歴史・文化・伝統等のレガシー継承

農村計画研究所2.0

農山村の新たな価値創出と展開



農山村の価値  
発信

## 人材育成、パートナーシップ構築


多様な主体とのパートナーシップ

人材、組織の育成／運営体制構築

SDGs教育の推進



三側面をつなぐ  
統合的取組①

 再生可能エネルギーの戦略的展開

町内に豊富に存在するバイオマス資源の活用

- 木質ペレットをはじめとしたペレットストーブ、ペレットボイラーの利用
- 町内の8割を超える森林資源、日本有数の規模を誇る財産区の活用



町有機肥料センター



町木質バイオマス製造施設

肉用牛由来バイオガス発電の推進

- ブランド和牛として名高い米沢牛の4割を生産する主産地
- 嫌気性発酵により臭気を低減することで、環境に配慮した畜産業のさらなる推進



飯豊町は米沢牛の主産地



バイオガス発電関連事業の推進

エリア熱供給の推進／エコタウンの推進

- バイオマス燃料を活用した熱エネルギーを公共施設エリア群への一体的な供給
- 厳しい環境性能に適合した住宅の建設を地元工務店が推進し、エコな暮らしの実現



エリア熱供給のイメージ



飯豊型エコ住宅の推進



## 三側面をつなぐ 統合的取組②

### 持続可能な農山村の未来づくり

#### 自治体シンクタンク「いいで未来研究所(仮)」の創設

- 農村計画学における学術資料や関連文献などのアーカイブ化による学習と研究の機能、地域づくりの交流拠点機能及び戦略拠点としての機能
- 自治体への政策提言、コンサルティング機能
- 農山村の多面的な機能を見つめなおし、複雑多様化する課題を克服する拠点機能を整備
- 農山村空間のランドデザイン



初代の農村計画研究所



農山村の価値、豊かさの発信

#### 農山村の新たな価値創出とパートナーシップ構築

- 厳しい自然や環境に適応し、重ねられてきた「相手を想う心」
- 外部有識者等との調査研究による人材育成機能
- 大学、他のシンクタンク等のネットワーク形成
- 個々に実施される企業研修、学生のフィールドワークなど、多様な活動を全体的にマネジメント、コーディネートする機能の構築



大学生のフィールドワーク

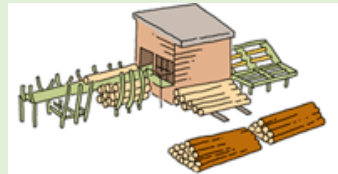


# 相乗効果① 経済と環境

地域資源を活用した再生可能エネルギーの利用促進

原材料となる木質バイオマス資源の活用促進

地域資源の持続的活用による里山景観の保全



- 自立分散型エネルギー確立
- 副次物となる液肥の有効活用
- 肥育をはじめとする畜産業の振興を促し、ブランド牛として名高い米沢牛のさらなる生産振興

- バイオマスエネルギーの自給
- 周辺地域での臭気の低減
- 有機肥料化、耕畜連携の取組補完など循環型農業の推進

家畜排せつ物等をはじめとしたバイオガス発電事業の推進



飯豊産米沢牛



たい肥



町有機肥料センター



バイオガス発電プラント

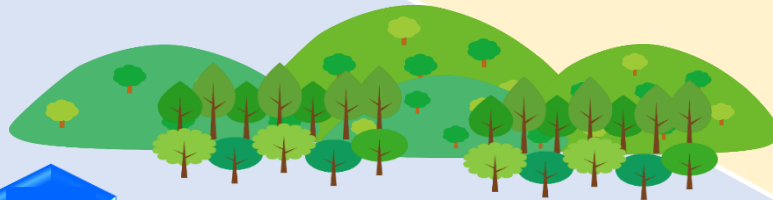


## 相乗効果② 経済と社会

生産の場である農山村空間の多様な価値が顕在化されることで、住民の理解と認識が深まる

農地の保全や有効活用、担い手への支援

- 多様な担い手による協働の進展
- 活力ある地域コミュニティの推進



経済

社会

関連産業の集積や既存企業との連携、イノベーション、コラボレーションに繋がる

都市の住民や企業、研究機関、教育機関など、多様で幅広いバックグラウンドの人材が交流

農山村における新たな価値を創出、提案し、実現するためのプラットフォームを提供する



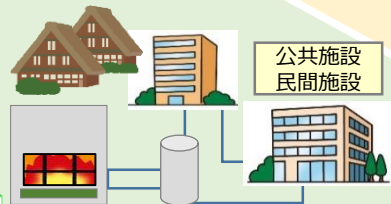


## 相乗効果③ 社会と環境

再生可能エネルギーを活用した熱利用、熱供給プロジェクトの推進

飯豊町らしい省エネ型エコハウスなど、熱エネルギーを利用した環境、健康に配慮した次世代住宅の建築促進

新しいコンセプトの暮らしが飯豊に住むことの新たな価値を体現する。さらには、豊かな地域コミュニティの維持につながる



公共施設  
民間施設

バイオマス熱供給システム



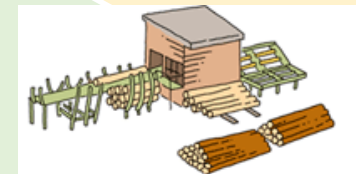
環境

社会

• 生活の場としての豊かな農山村環境と生態系の維持

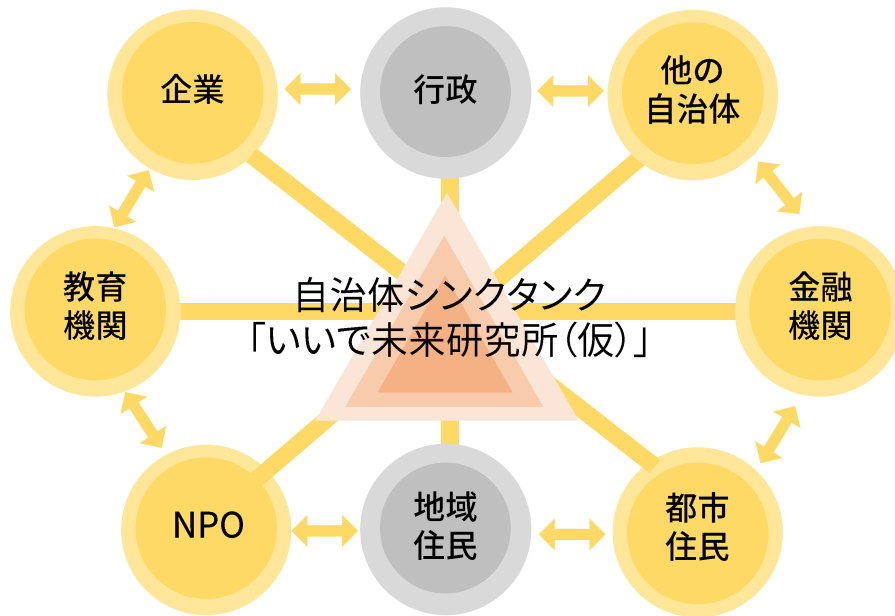
• 自然との調和の取れた農山村らしい空間、景観が保全され、農山村のアメニティ向上

バイオマス資源など、適切な規模の地域資源を活用した再生可能エネルギーの推進



自立的好循環

多様な主体と関係団体の参画 / 類似課題を持つ団体との連携



多様な主体による  
多様な関わり

豊かさの価値指標の  
共有

新たな価値の実践に取り組む企業の活動  
の展開誘致、交流により自立的な好循環へ

「日本で最も美しい村」連合

地域の自立に向けた運動の3つの柱

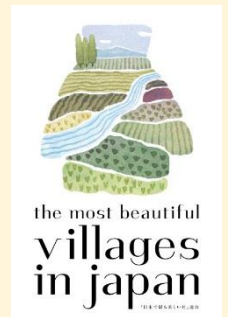
住民の自主的活動 → 経済的自立 → 世襲財産

point1

SDGsが達成すべき課題と具体的な目標は、美しい村連合の設立目的や運動の取組と内容が極めて親和性が高い

point2

SDGs以前より、まちづくりの理念として取り組まれてきており、住民の理解等の素地が整っている



2030年も「日本で最も美しい村」でありつづけるために



「変革は辺境から」  
Change from the frontier